

富山経協



アーモンドの花 (解説・22ページ)

CONTENTS

- 2 年度初めのご挨拶
- 3 2024年度 事業方針
- 4 2024年度 年間事業活動計画
- 6 2024年度 委員会活動紹介
- 9 人事労務管理INFORMATION
- 10 Top Interview
大阪電機商事 山本利太郎社長
- 12 調査報告
2024年4月新卒者等の採用に関する調査結果
- 14 事業活動報告
幹事会、理事会
- 15 連合富山との懇談会
- 16 委員会活動
- 17 講座・セミナー
- 18 参加者NOTES
- 22 新会員の紹介
- 22 会員の動き
- 23 労働指標
- 24 おしらせ・事業予定



年度初めのご挨拶

一般社団法人 富山県経営者協会

会長 山下 清胤

今年も、元旦に能登半島地震が発生。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げますが、年初より不穏な年の始まりを感じました。

一方、長引くロシアのウクライナ侵略戦争や新たに勃発した中東での紛争、隣国中国の経済成長鈍化など不安定な国際情勢や円安基調を背景にした物価上昇、慢性的な人手不足や環境問題への対応など企業経営を取り巻く課題は尽きません。

このような中、現在、国内では労使の賃金交渉が進行中です。

何れの経営者の思いも、企業として適正な利益の確保とともに、従業員に対する適正な賃金支給を両立させることにありと思っておりますが、先日行った、連合富山と当協会の役員懇談会でも、労使とも同じ方向を向いていることを改めて確認しました。

ただし、賃金を上げるためにはその原資が必要になります。

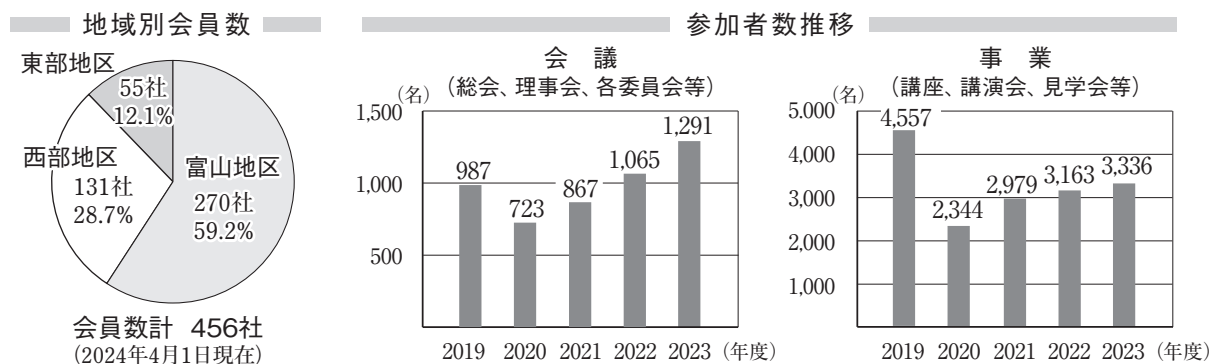
そのためには、一人当たりの付加価値増大が必須になり、当協会では『人的資本経営による企業価値向上』をテーマに研究・情報発信を行う予定です。経営陣が中心となって人材戦略を立て、事業価値を高めるための「人への投資」を検討、優秀な人材の確保や従業員のトレーニングを通じて事業成果を高める。人材は「経営が投資する対象」となり、個々人の能力や個性を最大限活かしていくことが人的資本経営の目的です。

もう1点は「適切な価格転嫁」。これは原材料やエネルギー価格のみならず、人件費も含めた価格転嫁が確実に行われ、各企業が賃金引き上げの原資を確保することです。サプライチェーン全体で上流から下流まで、企業規模を問わず中小企業から大企業まで、全てで価格転嫁が進まないで結局日本経済が寸断することになります。

会員企業の皆様には、何卒、これらの取り組みの推進に向け、一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

結びに、皆様のご活躍と企業のご発展を祈念いたしますとともに、本年度も経営者協会は創造的で活力のある企業経営の実現を目指し、様々な取り組みを行ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

協会の現況



2024年度事業方針

基本理念

富山経協は、創造的で活力のある企業経営の実現をめざし、地域社会の発展に貢献します。

2024年度事業方針

我が国経済は、長引くウクライナ戦争や新たに勃発した中東での紛争、隣国中国の経済成長の鈍化など不安定な国際情勢や円安基調を背景に、上昇傾向にある物価動向への対応、また、少子高齢化に伴う労働力人口減少による慢性的な人手不足や環境問題への対応など企業を取り巻く状況は引き続き厳しい。

特に長きにわたる「デフレからの脱却」と「安定的かつ持続的な経済成長」への重要局面をむかえ、職場環境の整備、多様な働き方、多様な人財の活用をさらに推進することで働く人が魅力を感じる、持続可能な企業体の構築が急がれる。

このような時にこそ、富山県経営者協会が長年「企業と人」にフォーカスしてきた事業活動が、ますます重要になっており、富山で事業を営む経営者で構成する民間経済団体として、あるべき姿を自覚し、新たな行動をすることにより、存在価値を高めていく。そのために多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究と広報、労働生産性の向上、会員企業で働くすべての社員の能力向上を目的とする研修・セミナー等、事業活動を進め会員サービスの向上につなげていく。

1. 企業経営に必要とするタイムリーな情報の収集と提供

- (1) 経営課題に関する調査研究と情報発信を行う。
- (2) 会員に必要な情報収集と発信を行う。
- (3) 人事労務、環境経営、人材育成に関する相談活動の充実を図る。

2. 「企業と人」にフォーカスした委員会活動の推進

- (1) 委員会の役割・目的を明確にし、タイムリーな研究・情報発信を行う。
- (2) あらゆる業種・階層に応じた人材育成の研修・セミナーを企画・実施する。
- (3) 『人的資本経営による企業価値向上』をテーマに研究・情報発信を行う。

3. 事業活動とサービスの幅を広げた会員相互の交流機会の支援

- (1) 総会、幹事会、地区懇談会を開催する。
- (2) 会員企業の見学会とビジネス交流の機会を提供・支援する。
- (3) 多様な交流機会を提供する。

4. 会員ニーズに沿った事業活動とサービスの提供

- (1) 会員訪問活動を強化し、要望やニーズを踏まえた事業活動を実施する。
- (2) 研修・セミナーは実施後評価を踏まえて、スクラップ&ビルドを行う。
- (3) 企業の「稼ぐ力」に繋がる「人への投資」「労働生産性の向上」等、先進的事例のセミナーを開催する。

5. 民間経済団体として機能発揮と地域社会発展への貢献

- (1) 会員状況把握、政策提言・要望活動を実施する。
- (2) 行政との連携と相互事業を実施する。
- (3) 経団連・他団体との情報連携を図る。

2024年度 年間事業

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
会 議		理 事 会 (17日)	定時総会 (23日) 理 事 会 (23日)		北陸三県・長野県 経営者協会役員 協議会 (12日・13日)		理 事 会 (13日)	
事 業			講 演 会 (23日)		西部地区会員懇談会 (26日)		富山地区会員懇談会 (13日)	
調 査		新入社員意識調査		初任給調査 夏季賞与調査	経営課題調査		新入社員意識調査 (フォローアップ編)	
広 報		富山経協4月号		富山経協6月号 講演録「不易流行」		富山経協8月号		
委 員 会	総務交流	会議			定例委員会		定例委員会	
		活動					富山経協ゴルフコンペ (14日)	
	人事・労務	会議	幹 事 会	定例委員会			定例委員会	
		活動		企業見学会	労働法関連法制 研究部会	メンタルヘルス部会	講 演 会	労働法関連法制 研究部会
	教育	会議			定例委員会		定例委員会	
		活動		研究部会	企業見学会	研究部会	勉 強 会	
	品質管理	会議	幹 事 会			定例委員会		定例委員会
		活動			会報編集部会	企業見学会	会報編集部会	事例発表会・GD
	環境	会議	幹 事 会			定例委員会		定例委員会
		活動		環境保全活動	県内企業見学会 環境保全活動	県との情報交換		委員相互の情報交換 環境保全活動
	経営企画・IT	会議			定例委員会			定例委員会
		活動			経営課題調査 テーマ設定 勉 強 会			セ ミ ナ ー
	講 座 ・ セ ミ ナ ー	階層別研修	新入社員合同研修 (4日)	職場リーダー基本 コース <2日間> (14日・15日)	管理職基礎コース <3日間> (18日・19日 ・10月18日)	職場リーダー入門コース <2日間・2回> (A 2日・3日) (B 9日・10日) 部課長実践講座 <2泊3日>(18日~20日)		自部門戦略立案研修 <2日間> (25日・26日) 新入社員フォロー アップ研修<2回> (A 18日) (B 19日)
		共通 (目的別)		仕事の基本「報連相」 セミナー (8日) ISO14001内部監査員 養成講座<2日間> (28日・29日)	ヒューマンエラー 対策講座【実践編】 <2日間>(11日・12日) コミュニケーション力 向上セミナー (6日)	なぜなぜ分析活用 セミナー【基本コース】 (23日) 会議の生産性を向上 するビジネス・ファンリ テーター養成講座 (24日)	なぜなぜ分析活用 セミナー【フラッシュ アップコース】 (8日) 女性社員スキルア ップセミナー (21日)	ISO14001内部監査員 養成講座<2日間> (3日・4日)
労務管理			人事・労務管理セミナー 第1回 (21日)	労働法実務講座 第1回 (20日)		人事・労務管理セミナー 第2回 (20日)	労働法実務講座 第2回 (10日)	
品質管理		品質管理入門講座【基礎編】<4日間> (4月11日~5月9日)		実践しながら学ぶ統計的手法活用講座<15日間> (5月16日~11月28日)				
		生産管理			ものづくりと現場改善 実践セミナー<2日間> (4日・5日)			IE手法による生産現場 の改善セミナー (6日)
営業		営業力強化研修 <2日間>(9日・10日)		現場の技術・技能伝承支援研修				
経理				財務会計の基礎講座 (17日)				

活動計画

10月	11月	12月	2025年1月	2月	3月		
					理事会・幹事会(7日) 連合富山との懇談会(7日)	会議	委員 会
	東部地区会員懇談会(8日)		経済団体新春互礼会(6日)			事業	
	冬季賞与調査 新春アンケート	経営課題調査		新卒者採用調査	2024年度調査報告書 春季賃金改定調査	調査	
富山経協10月号		富山経協12月号	富山経協新春号	富山経協2月号		広報	
		定例委員会				会議	
企業見学研修会	会員交流ボウリング大会(13日)					活動	
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議	
メンタルヘルス部会	労働法関連法制 研究部会	講演会	メンタルヘルス部会	講演会 労働法関連法制 研究部会		活動	
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議	
研究部会		勉強会		企業見学会		活動	
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議	
県外企業見学研修会 会報編集部会		事例発表会・GD 会報編集部会		勉強会 会報編集部会		活動	
	幹事会	定例委員会				会議	
県外企業見学会		講演会 事例発表会		セミナー		活動	
	定例委員会			定例委員会		会議	
	次年度協会活動 テーマ設定 経営課題調査 テーマ設定 勉強会					活動	
職場リーダー実践コース <2日間> (8日・9日) 若手社員実践コース (A 22日)(B 23日)	管理職中級ステップ アップコース <2日間> (19日・20日)		企業倫理研修 (21日)	職場リーダー実践コース <2日間> (18日・19日)	若手社員ステップ アップコース(11日)	階層別 研修	
改善セミナー 【基礎編】(4日) ヒューマンエラー 未然防止セミナー (11日)	ISO9001内部監査員 養成講座<2日間> (5日・6日)	タイムマネジメント 研修(17日)	CS顧客価値実現 セミナー(16日)		ISO9001内部監査員 養成講座<2日間> (4日・5日) 改善セミナー 【応用編】(13日)	共通 (目的別)	
	労働法実務講座 第3回(21日)			労働法実務講座 第4回(13日) 春季労使交渉セミナー		労務 管理	
	労務管理実務講座<5日間>(10月2日~11月27日)						
	変化点管理の考え方 進め方セミナー(15日)		品質管理入門講座【実践編】<4日間> (1月22日~2月7日)			品質 管理	
ものづくり女性社員 のための改善力向上 セミナー(25日)		5Sと目で見る管理 実践セミナー(5日)				生産 管理	
<18日間>(8月6日~2025年2月21日)							
						営業	
						経理	

2024年度 委員会活動紹介

総務交流委員会

委員長 水谷 和久

(北陸電気工事株式会社
代表取締役会長)



当委員会では、経営課題に関する情報交換を行うとともに、会員ニーズに即し、経営判断の参考となる調査・情報提供・広報を行い、会員ならびに富山県の産業界の発展につながる人脈構築、会員相互の連携を深めることを目的に事業活動を行っております。今年度も当委員会の活動としては、「会員交流事業」「調査活動」「企業見学研修会」を実施してまいります。「調査活動」においては、定期・経営課題調査を通じた有用な情報提供に努めておりますので、今後共、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また「会員交流事業」については、引き続きゴルフコンペやボウリング大会開催を計画しており、会員の皆様同士が交流し親交を深め、会員各位の事業に有益な情報交換等ができることを願っております。

● 活動概要

< 定例委員会 >

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、調査活動におけるタイムリーな経営課題テーマによる調査内容や会員交流事業の活性化などについて審議を行っております。

< 調査活動 >

「調査活動」は、総務交流委員会が主体となって実施しております。毎年、賃金改定、初任給、賞与、新卒採用等に関する調査や、その時々の経営課題に関する調査を実施し、調査結果を報道機関に公表するとともに、会員の皆さまに機関誌やホームページを利用して、有用でタイムリーな情報提供を行っております。

< 事業活動 >

「会員交流事業」として、9月のゴルフコンペ、11月のボウリング大会に加え、企業・施設見学会も実施する予定です。

人事・労務政策委員会

委員長 大門 督幸

(伏木海陸運送株式会社
代表取締役社長)



本年4月1日に人事・労務政策委員長を拝命いたしました。

当委員会は、企業における「人」の活用（雇用、育成、能力発揮、管理）に関わる諸制度や法令を研究・周知し、健全な労使関係を維持しつつ、時代に即した労務政策を研究・提言することにより、会員企業の発展と経営の安定に貢献することを目的としています。

今年度は、「人的資本経営による企業価値向上」をテーマに、企業見学会や講演会・セミナー等を開催し、働き方改革、生産性の向上、人材の採用・定着・成長に向けた取り組み事例の情報発信、共有化を図っていく予定です。また、経営者の視点に立った情報提供を行うセミナーの開催や部会活動も実施いたします。会員企業の皆様のご協力、ご参加をよろしく申し上げます。

● 活動概要

< 定例委員会 >

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、経団連や県等の外部団体との情報・意見交換も行っております。

6月 企業見学会（働き方改革、生産性向上に向けた取り組み事例等）

8月 経団連の労働政策や労働法制の動きに関する情報・意見交換

12月 富山県「企業と従業員のウェルビーイング創出事業」講演会

2月 人材確保に向けた情報交換会（採用・定着・成長）

< 研究部会活動 >

・労働法関連制研究部会（年4回開催）

最新の労働判例について、弁護士を講師に判例解説、意見交換を実施しております。

・メンタルヘルス部会（年3回開催）

専門機関の講師を招き実務担当者を中心にメンタルヘルスに関する勉強会・意見交換会を実施しております。

< 事業活動 >

経営者協会で実施する人事・労務に関わる講座・セミナーで取り上げるテーマや内容について審議を行い、①人事・労務管理セミナー、②労働法実務講座、③労務管理実務講座等を開催しております。

教育委員会

委員長 品川祐一郎
(トヨタモビリティ富山株式会社
代表取締役社長)



当委員会では、人的資本経営の実践に向けて、人材育成や企業内教育の諸課題について幅広く調査研究し、会員企業の社員教育、社員の資質向上の一助とし、会員企業の発展に貢献することを目的としております。

本年も、委員会活動としては「企業見学会」や「勉強会」、「研究部会」活動などを通じて、人材育成や企業風土改革、マネジメント向上に関する幅広い情報交換と研究を行いたいと考えております。また、その成果を生かして「階層別研修」をはじめ「職能別研修」など時宜に適したテーマ・内容でより効果の高い研修を、リアル・オンラインの両面で企画・実施し、会員企業の皆様の「人的資本経営による企業価値向上」に寄与してまいりたいと考えておりますので、皆様のご参加、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

● 活動概要

<定例委員会>

定例委員会を6月・8月・12月・2月の年4回開催しております。6月と2月は「企業見学会」を、8月と12月は「『人的資本』としての人材マネジメント実践」や「シニア層による組織活性化とキャリア開発」をテーマとした「勉強会」を、定例委員会と合わせて実施する予定です。

<研究部会活動>

「人的資本経営における人材マネジメント」をテーマとしております。人的資本経営では、従業員を組織の重要な資産として捉え、その価値を最大限に引き出すことが求められます。各社が自社の企業価値向上につながる人材マネジメントの取り組み、仕組み、制度等をどのようにしていくかという観点で調査・研究いたします。

<事業活動>

階層別研修を15講座、職能別研修を10講座開催します。リアル研修とオンライン研修の併用開催を実施するなど、時宜に適したスタイル・テーマ・内容で開催いたします。

品質管理委員会

委員長 谷川 正人
(コーセル株式会社
取締役会長)



当委員会の目的は、企業経営における『品質』の重要性を認識し、「顧客・品質第一」を基本とした考え方のもと、品質経営・品質管理活動の普及と向上を図ることで、会員企業の発展に貢献することです。

事業環境が大きく変化する中、社会ニーズの多様化・高度化への対応、新たな価値の創出など、企業にはこれまで以上に変化を先取りしつつ対応していく現場力、組織能力が求められます。

当委員会では、品質経営の重要な考え方や取り組みを内外から学び、また、委員の相互交流を図ることで、「企業価値向上のために必要な組織能力」や「自部門が果たすべき役割」を認識し、企業価値向上に資する基盤強化や現場力・組織能力向上に役立ててもらいたいと考えています。皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

● 活動概要

<定例委員会>

委員に加え、若手担当者も交えた相互の情報交換・経験交流として「事例発表・GD形式」を2回、他社の活動を実際に目で見て体感する場として「委員企業見学会」を1回、日本の品質経営・品質管理の先進企業を直接見て学び、品質管理活動の意識を高め、会員相互の啓発を図ることをねらいに「県外企業見学研修会」を1回計画いたしました。

また、品質に関する重要な考え方を学ぶ勉強会を1回開催するとともに、日本科学技術連盟主催の「品質管理シンポジウム」への参加を計画しています。

なお、品質管理委員会会報紙「join♡T」の第4号を引続き発行する予定としています。

<事業活動>

人材育成に関わる「講座・セミナー」を15講座開催し、委員の講座・セミナー担当制を引続き実施することにより、講師との情報交換を行い、階層別・分野別の品質管理教育の計画的実施と内容の見直し等を行っております。

また、富山県より受託の「現場の技術・技能伝承支援研修」を引き続き運営する予定です。

環境委員会

委員長 小田 満広

(北陸電力株式会社
常務執行役員)



当委員会は、持続可能な循環型社会を目指し、かけがえない地球環境を次世代へ引き継ぐとともに、事業活動を通じ、環境保全と安定的経済社会の両立を図ることを目的として活動しております。

さて、昨年度の委員会活動としては、外部講師によるGX（グリーントランスフォーメーション）に関する勉強会や環境セミナーの開催、富山県機電工業会の皆様との情報交換会、県内外の企業見学会等を実施し、いずれも沢山の会員の皆様に参加いただきました。

引き続き、今年度も会員のみならず、行政による環境施策に関する情報や会員のみならずが取り組んでいる事例等、カーボンニュートラル全般に関する情報を共有、交換ができるよう、諸活動を展開してまいりますので、皆様のご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

● 活動概要

<定例委員会>

定例委員会を7月・9月・12月の年3回開催しております。9月は委員各社のカーボンニュートラルを含めた環境問題に対する取り組み状況の情報交換を計画しております。また、富山県機電工業会の環境委員会と共催で7月「富山県との情報交換」、12月「講演会・事例発表会」を計画し、委員会を超えた情報交換・相互交流の促進にも取り組み、持続可能な循環型社会構築の一助となるよう活動いたします。

<事業活動>

環境経営導入・強化に向けた人材育成策として「ISO14001内部監査員養成講座」を5月と9月の2回開催いたします。

また、環境問題に対する様々な取り組みを実際に目で見て体感することを目的に「県内・県外企業見学会」の実施や、オイスカ富山県支部の「環境保全活動」にも参加をし、地球環境の保全に少しでも役立てるような活動をしていきます。

経営企画・IT委員会

委員長 萩中 利昌

(三協立山株式会社
執行役員)



当委員会の目的は、「経営者・経営層を対象とした経営課題に関する研究・調査を行いその成果を情報発信するとともに、経営理念や方針等を社員に浸透させる取り組みや仕掛けについての勉強会・見学会を企画実施する」ことと、「企業経営環境の変化に対応した重要課題を委員会で議論・意見交換し、その中で浮かび上がった緊急課題を理事会に提言し協会の政策立案につなげる」こととしております。

今年度は、協会活動テーマである「人的資本経営による企業価値向上」のもと、各種経営課題についての研究・調査活動、情報発信、および行政・他団体とも連携した施策の実施・支援など、皆様の継続的な成長・発展に寄与できるよう取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

● 活動概要

<定例委員会>

委員相互の情報交換の場として年4回開催しております。今年度は6月と11月に経営課題調査のテーマ設定、11月に協会活動テーマを検討する予定です。また、勉強会を6月と11月に、県との共催でセミナーを9月に実施する予定です。

<事業活動>

経営者の役割に特化した経営課題をテーマに研究・調査活動について審議・検討を行い、議論の中で浮かび上がった緊急課題については理事会に提言し、協会の政策立案につなげております。その上で、総会や地区会員懇談会における講演会等の企画・実施を行っております。

<ITインフラ部会活動>

企業の生産性向上に向け、経営の切り口からIT活用について調査・研究を行っているほか、参加企業間でのIT活用や情報セキュリティのあり方等について情報交換を行っております。

委員会活動についてのお問い合わせは 事務局まで

TEL (076) 441-9588

Eメール info@toyama-keikyo.jp

富山県の労働環境報告

富山労働局より、2023年度の労働行政に関する情勢が発表されました。

富山県内の2023年度の雇用環境は引き続き安定した状態にあり、有効求人倍率は1.41倍（2024年2月）と、全国平均（1.26倍）を上回る状況が続いています。

総合労働相談件数は9,126件（前年比199件減）、個別労働相談件数は2,790件（183件増）（2023年1月～12月）で、うち「民事上の個別労働紛争に係る相談」が2,790件、なかでも「職場におけるハラスメント」に

関する相談は1,462件（前年比72件増）、特に「パワーハラスメント」は668件（前年比274件増）となっています。

また、労働基準監督署において直接受理した、賃金不払、解雇など労働基準関係法令上の問題が認められるとした申告事案の件数は212件（前年比46件増）、労働局長の助言・指導の申出件数は46件（前年比2件減）、紛争調整委員会によるあっせんの申請件数は15件（前年比5件増）でした。

1. 雇用をめぐる動向

(1) 女性の雇用状況

女性雇用者数 222,900人（雇用者総数の47.5%）
正規の職員・従業員の割合 53.9% ※1
管理的職業従事者に占める女性の割合 9.2% ※2
（全国平均 9.8%）
育児休業取得率 女性 98.9% 男性 15.6% ※3
（全国 女性 85.1% 男性 33.9%）※4

※「産後パパ育休」（2022年10月施行）、「従業員1,000人超企業育児休業等取得状況の公表」（2023年4月施行）

(2) 高齢者の雇用状況（21人以上規模）

高齢者雇用確保措置実施企業数 99.8%
70歳までの高齢者就業確保措置を
実施している企業の割合 24.7%

(3) 障害者の雇用状況

実雇用率 2.32%（0.08ポイント上昇）
雇用率達成企業割合 55.6%（0.3ポイント低下）

注：法定雇用率が2024年4月から2.5%、2026年7月から2.7%と段階的に引き上げられる。

(4) 外国人の雇用状況（2023年10月31日現在）

事業所数 2,295事業所（前年比4.0%増）
外国人労働者数 13,427人（前年比9.9%増）
国籍別外国人労働者数：ベトナム4,427人（外国人労働者全体の33.0%）、中国2,240人（同16.7%）、フィリピン、1,859人（同13.8%）、インドネシア11,462人（同10.9%）

(5) 非正規雇用労働者の雇用状況

非正規雇用労働者数 151,700人
雇用者に占める割合 27.7%（全国31.5%）
パート・アルバイト 67.4%（全国69.6%）
契約社員 13.2%（全国13.9%）
派遣社員 ※5 8.2%（全国 7.2%）
業種別：卸売業、小売業（20.0%）、製造業（15.8%）、医療、福祉（14.9%）

※1 2022年就業構造基本調査

※2 2020年国勢調査

※3 富山県2023年度賃金等労働条件実態調査

※4 2021年度雇用均等基本調査

※5 2022年就業構造基本調査

2. 労働条件等をめぐる動向

(1) 労働時間等の状況（事業所規模30人以上）※6

年間総実労働時間 1,777時間（全国1,726時間）
所定内労働時間 1,648時間（前年比21時間増）
所定外労働時間 130時間（前年比27時間増）
全国に比べて長い状況が続いている。

(2) 年次有給休暇平均取得率の状況

57.3%（前年60.2%） 全国62.1%（前年58.3%）
全国に比べて低い取得率となっている。

(3) 労働災害の状況

休業4日以上の死傷者数 1,245人（前年比807人、39.3%減）
死亡者数 8人（前年比3人減）

全死傷者のうち、新型コロナウイルス感染症による休業が148人（前年比781人減）で11.9%、転倒災害によるものが30.1%を占めているほか、60歳以上の死傷者が30.2%を占めている。

(4) 労災補償の状況（2022年度）

新規受給者数 6,285人（7.9%増）
脳・心臓疾患事案 7件（前年度6件）
精神障害事案 12件（前年度10件）
石綿関連疾患に係る件数は9件（前年15件）と、減少している。

※6 毎月勤労統計調査

仕事を通じて 人間力を高める 理念の浸透図り、成長を実感

大阪電機商事株式会社
代表取締役社長

山本 利太郎 氏



設立から65年になられます。会社の概要をお伺いします。

当社は内線工事で使う電線や電設資材を卸販売しています。内線工事とは、電柱から電線を引き込み、建物や施設の配線を敷設する工事です。

創業者である祖父は大阪で兄と一緒に電線を製造する大阪電気工業(株)を立ち上げました。1954年に富山へ来て北陸営業所を開き、5

年後の1959年には電線以外の資材も扱おうと営業所を引き継ぐ形で大阪電機商事(株)を設立しました。

当初はいわゆる“旅の人”として苦労したようですが、誠意を持って続けていれば必ず誰かが見てくれていると熱心な営業活動でお客様を獲得し、経済成長にも乗って事業を拡大しました。

どのような変遷でしたか。

設立時から配線器具などの一般

材料を取り扱っていましたが、住宅やオフィスの新築が増える中で照明機器の需要も増え、シャンデリアなどの照明専門のショールームを構えたこともあります。

エアコンも、普及に合わせて取り扱い始め、近年は建物の気密性が高くなり空調機器が重要視されるようになってきています。

現在の売上げ比率は電線が25%、照明器具、配分電盤、一般材料がそれぞれ20%、空調などの環境機器が10%程度の割合です。

—地域で認められる会社—

経営理念は「わが社は、地域社会においてその存在価値を認められなければならない」とあります。

これは創業者が作った理念ですが、三方善しの精神を体現しなさいということであると自分なりに理解しています。地域社会とは、世間が永続していくには次世代を担う子供たちが大人を手本に健全に成長していく姿が望ましいと思いますし、存在価値とは社員がお客様から認められ、また当社が良い取引先だと認められることだと、社員にも話しています。新卒で入る社員の親御さんからも喜んで認められる会社とも言えます。

社是には「忍耐・誠意・勇氣」を掲げており、これも祖父が残した言葉で、旅の人が苦労しながらも腐らずに頑張って商売を続けてきた思いが伝わってきます。しかし、これが今の若い人には伝わらない。そこで、希望を持って、仕事を精一杯やる中でお客様に購入していただき、目の前のことに立ち向かっていくこととかみくだいて言っています。重要なのは、いかに世間様に認められる瞬間を体験し、やりがいを感じて仕事をしていくかということになるので、

その仕組みづくりが私の仕事であると思っています。

人材育成の具体的な取り組みは？

一時、離職者が続いた時期があり、退職する社員から「私は、(忙しそうにしている自分を見て)後輩が相談できない雰囲気を持った先輩になりたくない」と言われたのです。辞めていく原因が、待遇や福利厚生への不満だと思っていたのが、そうではなくキャリア形成への不安だったことに気づかされました。

それから毎月の幹部会議の中で、経営理念やビジョンについて話し合う時間を作ってきました。何のためにこの会社で働くのか、誠意とは何か、何のために会社の予算があるのか、なぜ結果を出さないといけないのか、部下への指示や指導は納得する形で伝わっているか。こんなことを徹底的に話し合ってきました。

理念の浸透に向け、大切な意識改革に取り組まれたのですね。

また、新入社員を「百年示道塾とやま」という団体が実施している若手塾という事業に送り出しています。その中に「令和の武者修行」があります。中小企業の新入社員が子ども達と一緒に5日間(立山登山含む)を過ごす内容なのですが、その準備や企画を新入社員達が行います。違う会社の社員と一緒に準備し、初めて会う子

ども達を迎えて、一緒につらい思いをしながら立山に登ってきます。非日常の体験は人を成長させますし、先に経験した先輩とも共通の話題ができ、社内のネットワークづくりにも役立っています。

他にも社員との面談に加えて、年に一度匿名の社内アンケートも実施し、職場の仕組みや事業計画に少しずつ反映しているところです。技術力や専門知識は勉強で身につけられますが、気遣い、誠意、一生懸命さといったものは押しつけることができません。仕事の中で醸成し、人間力を育てられる会社になりたいと思っています。

-DXを図りながら現場重視- 今後の展開についてお尋ねします。

ものを売る商売に留まらず、お客様に体験やサービスを提供することにも取り組み始めました。

労働力不足を補うため、電気工事屋さんの施工業務以外の部分、例えば事前の現地調査や見積り作成を代行するエンジニアリング事業を始めています。いずれは工事部隊も構えたいと考えています。

また、工具レンタルというあまり見かけないサービスもしています。工具は慣れが大事で、最新の高額な工具に手が出なくても、レンタルで使って気に入れば購入につながるというものです。

さらに太陽光発電に再び力を入

れる計画です。再生可能エネルギーの固定価格買取制度が始まった2009年から積極的に取り組んできましたが、固定買い取り期間の10年を迎えています。電気自動車(EV)の普及に伴い、緊急時にEVを電力として使う「V2H」の仕組みが注目されており、電気料金が値上がりする中、太陽光発電を活用した賢い電気の使い方を提案していきます。

DX化の取り組みはありますか。

この業界はデジタル化が20年遅れていると言われていますが、当社はデータを磁気テープで管理していた時代からコンピュータを導入し、お陰でバックヤードの管理や業務管理の効率化はうまくいっています。蓄積されたデータを様々な形でアウトプットできるように、AIを含めて仕組みを作りたいと思っています。

一方で、人と人との接触の部分の効率化は考えていません。現場を大切にしてきた企業文化を大切に、お客様との接触は積極的にしていきます。

座右の銘を教えてください。

松下幸之助さんの「青春とは心の若さである」という言葉です。挑戦することに年齢は関係ないという希望があふれています。私自身が志を持って、会社の活力にしていきたいと思っています。

会社概要

大阪電機商事株式会社

設立：1959(昭和34)年3月
所在地：富山市新庄本町1丁目5番34号
資本金：2,700万円
事業内容：電線、電設資材(電気設備機器・電気工事材料)、住宅環境機器の卸売
従業員数：67名(2024年1月現在)
売上高：40億6,500万円(2023年4月期)
事業所：富山事業部、高岡支店、金沢支店
U R L：<https://osakadenki.co.jp/>

略歴

1976(昭和51)年11月富山市生まれ。1999年大阪学院大学経済学部卒業後、福西電機(株)へ入社し営業に従事。2004年大阪電機商事(株)に入社し、子会社の(株)アキラ電機(現金沢支店)へ出向。2015年代表取締役社長就任。



百年示道塾とやまの「令和の武者修行」を無事終えた若手(新入社員)と若侍(中学生)と一緒に(2023年8月19日)

2024年4月新卒者等の採用に関する調査

採用実績は全体で前年比2.9%増 製造業は4.4%減、非製造業12.1%増

2025年4月採用は増加の予定

当協会では標記調査結果をまとめた。2024年4月('24/4)新卒者の採用実績は、全産業では前年比2.9%の増加となった。産業別の内訳は、製造業が4.4%の減少、非製造業が12.1%の増加となっている。

また、2025年4月('25/4)の採用予定数は、具体的数値で回答があった企業で見ると、全産業では'24/4の採用実績に対して34.7%の増加予定となっている。産業別の内訳では、製造業が36.7%、非製造業が32.5%の増加予定となっている。

〔調査対象企業等〕

調査対象は、当協会会員企業458社(2月1日現在)。回答は223社からいただいた(回収率48.7%)。内訳は製造業117社、非製造業106社である。この調査は1995年より毎年行っているもので、今回は30回目となる。

■新卒者の採用状況

1. 2024年4月採用実績

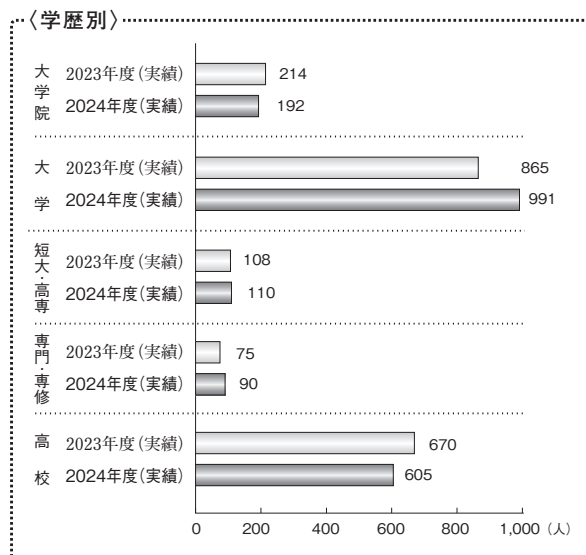
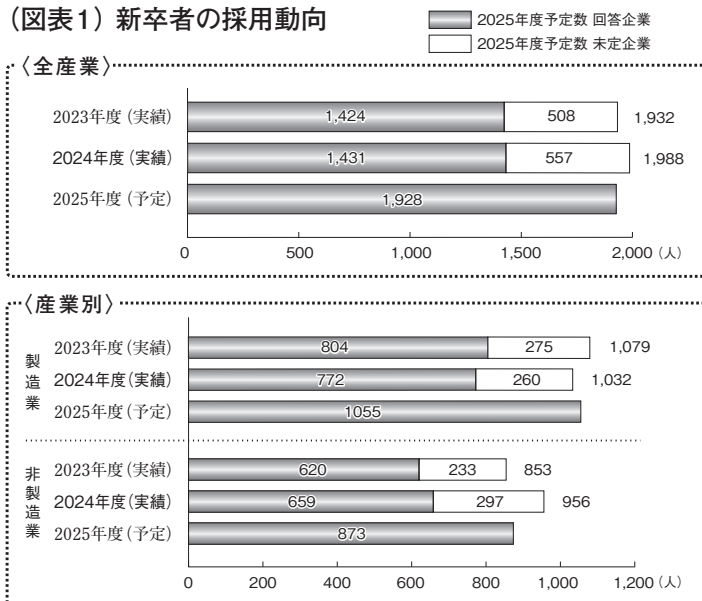
全産業・全学歴計で見ると、2023年4月('23/4)の1,932人に対して'24/4は1,988人で56人増加(+2.9%)となった。

産業別で見ると、製造業では'23/4の1,079人に対して'24/4が1,032人で47人減少(▲4.4%)、非製造業では'23/4の853人に対して'24/4が956人で103人増加(+12.1%)となった。

次に、学歴別にみると、大学院卒が'23/4の214人から'24/4の192人(22人減、▲10.3%)、大学卒が'23/4の865人から'24/4の991人(126人増、+14.6%)、短大・高専卒が'23/4の108人から'24/4の110人(2人増、+1.9%)となった。

一方、専門・専修卒で15人(75人から90人、+20.0%)増加し、高校卒で65人(670人から605人、▲9.7%)減少した。(図表1)

(図表1) 新卒者の採用動向



※2023年度及び2024年度実績には2025年度採用未定企業の人数が含まれている。

2. 2025年4月採用予定

'25/4の採用予定数について、全産業223社で具体的数値での回答があった149社(66.8%)の合計は1,928人で、同じ149社の'24/4の採用実績1,431人に対して497人増(+34.7%)となっている。また、'25/4の採用予定者数を未定としている企業が74社(33.2%)あり、'24/4の採用実績は557人であった。

産業別でみると、製造業117社で'25/4の採用予定者数について具体的数値で回答があった80社(68.4%)の合計は1,055人であり、同じ80社の'24/4の採用実績772人に対して283人増(+36.7%)となっている。また、'25/4の採用予定者数を未定としている企業が37社(31.6%)あり、'24/4の採用実績は260人であった。

非製造業106社で'25/4の採用予定者数について具体的数値で回答があった69社(65.1%)の合計は873人であり、同じ69社の'24/4の採用実績659人に対して214人増(+32.5%)となっている。また、'25/4の採用予定者数を未定としている企業が37社(34.9%)あり、'24/4の採用実績は297人であった。(表2)

(表2) 業種別採用状況(実績・予定)

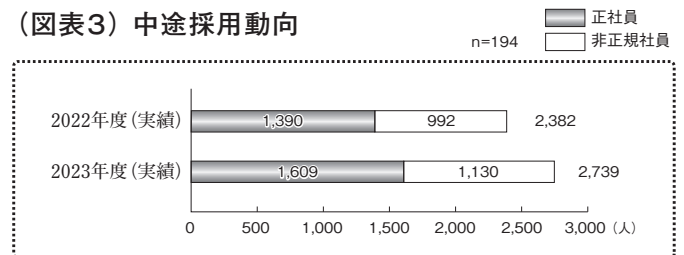
(単位:社、人)

産業区分	2025年度採用予定回答企業				2025年度採用未定企業		
	企業数	25年4月予定	24年4月実績	23年4月実績	企業数	24年4月実績	23年4月実績
食料品・飲料	2	12	4	4	3	4	5
繊維	0	0	0	0	2	4	1
木材・パルプ・紙	4	38	35	19	2	3	1
印刷	1	10	12	11	4	36	40
化学	15	236	163	202	5	33	47
プラスチック・ゴム	8	115	76	50	1	1	0
鉄鋼・非鉄金属	2	19	13	12	5	32	21
金属製品	10	67	46	45	6	116	110
汎用・生産機械器具	18	221	169	203	4	3	5
電子・電気機械器具	11	131	101	116	1	0	1
輸送用機械器具	3	33	16	20	3	22	40
その他製造業	6	173	137	122	1	6	4
製造業計	80	1,055	772	804	37	260	275
建設	16	228	175	185	6	24	15
電気・ガス	2	128	112	121	1	0	1
情報通信	8	110	108	75	4	186	149
運輸	7	23	24	20	8	23	18
卸・小売	19	221	123	108	7	8	3
金融・保険	2	18	12	9	2	37	31
宿泊・飲食・生活関連	0	0	0	0	2	0	0
学術・専門・技術サービス	4	60	60	44	3	10	7
教育・医療・福祉	2	35	15	21	1	1	1
その他非製造業	9	50	30	37	3	8	8
非製造業計	69	873	659	620	37	297	233
全産業計	149	1,928	1,431	1,424	74	557	508

■中途採用の状況

'23年度中に中途採用を行った企業は223社中194社(87.0%)で、'22年度の採用実績2,382人に対して'23年度の採用実績は2,739人となり、357人増加(+15.0%)となった。正社員で219人増加(1,390人から1,609人、+15.8%)、非正規社員で138人増加(992人から1,130人、+13.9%)となった。(図表3)

(図表3) 中途採用動向



事業活動報告

幹事会

3月8日(金) 16時30分から富山電気ビル4階光の間で、54名が出席し幹事会を開催した。山下会長の挨拶の後、下記の報告を行った。

(1) 2023年度事業報告

第78回定時総会は、5月25日に開催し、2022年度事業報告と財務諸表、県に提出する公益目的支出計画実施報告、2023年度事業計画と損益予算、理事・監事の選任について審議し、承認された。

総会終了後、経済ジャーナリストの井上久男氏を招き、「「アフターコロナ」で大きく変わる産業・社会～勝ち残っていくために必要な視点とは～」と題して、講演会を行った。

理事会は、4月24日、5月25日、9月15日の3回と、書面理事会を6月22日、7月26日、11月28日、2月2日の4回開催した。

会員懇談会は、7月28日に西部地区、9月15日に富山地区、11月10日に東部地区、合わせて3回開催し、経済5団体合同の新春互礼会は令和6年能登半島地震の影響で中止した。

広報活動のうち、機関誌は7回発行、開催した講演会は小冊子にとりまとめて配布し、ホームページにも掲載した。

調査活動である定期調査は7回、経営課題調査を2回実施した。

講座・セミナーは、オンライン併用を含め開催回数は56回となったが、定員の規制の緩和等により参加者はコロナ前の95%となる1,766名が受講した。

受託事業として、富山県から「TOYAMATCH(トヤマッチ)創設事業」と「現場の技術・技能伝承支援事業」、厚生労働省から「次世代育成支援対策推進センター事業」を受託した。

委員会活動について、水谷総務交流委員会委員長、中西人事労務政策委員会副委員長、品川教育委員会委員長、谷川品質管理委員会委員長、小田環境委員会委員長、萩中経営企画・IT委員会委員長から報告があった。最後に、教育委員会研究部会から、テーマ「従業員の離職防止およびエンゲージメント向上への対応」について成果報告があった。

(2) 2023年度正味財産増減

見込み報告

受取会費は52,936千円、事業収益は新型コロナウイルスの5類移行で受講者が増えたことから、講座セミナーは予算より6,500千円増の36,500千円、オーダーメイド研修会は3,500千円の見込み。県受託事業収益は15,500千円を見込んでいる。雑収益は603千円を予定。経常収益計は110,540千円となる見込み。

経常費用計は、総会や会員懇談会をコロナ前の規模では開催した



ため、予算に対し約7,333千円の増加となり、111,959千円の見込みである。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額の見込みは、▲1,419千円となり、予算に対し4,451千円の収支改善となる。

(3) 2024年度暫定予算(案)報告

受取会費は、会員数460社を前提として53,000千円とした。事業収益は、講座セミナー事業で39,000千円、委員会事業で2,000千円、オーダーメイド研修で2,500千円、会員共益事業で1,600千円、県受託業務事業で14,400千円とし、計59,500千円の予算とした。雑収益は605千円で予算を組み、経常収益計は、113,106千円の予算とした。

一方、経常費用は、総会や会員懇談会を例年通りの規模で開催することを前提に、116,126千円で予算を組んだ。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額は、▲3,020千円となる。

報告終了後、山下会長から、「2024年度の全体行事日程」の連絡と参加の依頼があった。

理事会

3月8日(金) 17時35分から、富山電気ビル4階7号室で、山下会長はじめ理事総数11名中10名、監事総数4名中3名が出席し、3月理事会を開催した。

山下会長が議長となり、(1)2024

年度事業方針(案)の件、(2)2024年度暫定予算(案)の件、(3)新会員入会の件について審議し、すべての議案は全員異議なく承認された。続いて、①2023年度事業実績(2月末現在)、②2024年度行事スケジュールについて報告があった。



連合富山との懇談会

3月8日(金)、連合富山役員と富山経協役員との懇談会が富山電気ビルで開催された。

当協会からは山下会長、矢野副会長、浅野副会長、中西副会長、谷川副会長、品川副会長、原副会長、大門副会長、金岡相談役、中西人事・労務政策委員会副委員長、寺山専務理事の11名が、連合富山からは浜守会長はじめ15名が出席した。

懇談会に先立ち、連合富山の浜守会長から富山経協の山下会長へ要請書が手渡された。要請書では、20年以上にわたり根強く残るデフレマインドを完全に払拭し、経済と国民の生活水準が安定的に上昇するステージへ転換するために

は、労務費を含む適正な価格転嫁や「人への投資」「未来への投資」を通じた生産性の向上などにより、継続的に格差是正を含む賃金の引き上げを行うこと、そして、誰もが安心・安全に働くことができ、個々人のニーズにあった多様な働き方ができる環境づくりが必要であると示し、6つのテーマと個々の要請について、申し入れしている。

浜守会長から、この要請書の基本的考え方について説明を受けた後、これを受けて、山下会長は、「2月2日の経団連 十倉会長と連合 吉野会長との懇談会で、基本的に労使共に向いている方向にズレはないことを双方、確認してい



る。また、中小企業の賃金が上がらないと日本全体の底上げにならないことは当然であるが、規模に関係なく、サプライチェーン全体で、労使共に同じ方向を向いて進んでいくことが重要であり、日本中がそうならないと世界と戦っていけない」と述べた。

その後、自由討議に入った。今回は事前に意見交換テーマを数項目に絞り込んで実施したことで、より活発な意見交換が行われた。

2024年2月16日～4月8日

(OL)=オンライン併用開催

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
会 議	品質管理委員会「定例委員会・企業見学会」	品質管理	2月20日(火)	田中精密工業(株)	15名
	人事・労務政策委員会「講演会・定例委員会」	人事・労務政策	2月27日(火)	富山経協・研修室	18名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	3月1日(金)	富山電気ビル4階7号室	10名
	会長・副会長会議		3月8日(金)	富山電気ビル4階 寿の間	9名
	連合富山役員と富山経協役員との懇談会		3月8日(金)	富山電気ビル5階 中ホール	26名
	幹事会		3月8日(金)	富山電気ビル4階 光の間	54名
	理事会		3月8日(金)	富山電気ビル4階7号室	13名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	4月8日(月)	富山経協・研修室	9名
見学会	総務交流委員会「企業見学会」	総務交流	3月13日(水)	榎田酒店店ほか岩瀬の各施設	9名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	労働法実務講座<第4回>	人事・労務政策	2月16日(金)	富山経協・研修室(OL)	11名
	品質管理入門講座<実践編>	品質管理	2月19日(月)	富山経協・研修室	21名
	職場リーダー実践コース	教育	2月20日(火)・21日(水)	富山経協・研修室	44名
	現場の技術・技能伝承支援研修	品質管理	2月22日(木)	タワー111ビル3階 スカイホール	16名
	カーボンニュートラル推進セミナー	環境	2月26日(月)	富山経協・研修室(OL)	47名
	情報セキュリティ基礎セミナー	経営企画・IT	2月28日(水)	富山経協・研修室(OL)	11名
	次世代経営者育成セミナー ～ひと・しごと未来創生塾	経営企画・IT	3月1日(金)	富山電気ビル5階 中ホール	4名
	若手社員ステップアップコース	教育	3月5日(火)	富山経協・研修室	44名
	若手社員ステップアップコース[追加開催]	教育	3月6日(水)	タワー111ビル4階 ギャラリー	39名
	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	3月6日(水)・7日(木)	富山経協・研修室	28名
	改善セミナー・応用編 ～改善レベルアップ講座～	教育	3月12日(火)	富山経協・研修室(OL)	26名
	新入社員合同研修	教育	4月4日(木)	タワー111ビル スカイホール	169名

総務交流委員会

■企業見学会

3月13日(水)、水谷委員長はじめ9名が参加して、富山市岩瀬で開催した。

最初に榊田酒造店の榊田社長から岩瀬の修復再生事業に関する話があり、修復前と修復後の写真を比べながら、これまで実施した事業の説明を受けた。

次に瓶貯蔵庫『寿蔵』に入り、瓶詰された満寿泉の熟成古酒が両側に並んでいるのを見た後、酒蔵を

案内して頂き、しばらくたての日本酒と熟成した日本酒をそれぞれ飲み比べ、同じ日本酒でも全く異なる風味であることを体感した。

酒蔵見学を終えた後は、蔵元周辺を散策し、飲食店や工芸家の店舗などを見学した。陶芸、木工、ガラスなど多くの才能あるアーティストが工房を構え、富山の美味と共に素晴らしい工芸品に触れることができる町となるよう、榊田酒造店が中心となって岩瀬地区



を盛り上げるまちづくりに取り組んでいることを実感した。

人事・労務政策委員会

■定例委員会

2月27日(火)、富山経協・研修室にて開催した。

第1部の「人材確保に向けた情報交換会(採用・定着・成長)では、八十島委員長をはじめ16名が参加。「多様な人材が活躍できる職場づくり ～コミュニケーションの役割～」と題し、社労士モリマ ユミオフィスの特定社会保険労務士 森 眞弓氏に講演を頂いた後、

グループワークおよび情報共有を行った。

第2部の定例委員会には18名が出席し、八十島委員長挨拶の後、事務局より委員交代の紹介、「2023年度事業活動報告及び今後の予定」、「2024年度の事業活動計画(案)」について報告した。その後、富山県人材活躍推進センター プロフェッショナル人材戦略本部の久金本部長ならびに広瀬コーディ



ネーターより、「その悩み副業人材で解決できます ～『外部人材』の採用で、中小企業が変わる！～」と題して情報提供があった。

品質管理委員会

■定例委員会

2月20日(火)、谷川委員長はじめ委員15名が出席して、田中精密工業(株)婦中工場で開催した。

定例委員会に先立ち企業見学会を開催し、田中精密工業(株)の会社概要および品質管理の取り組み(外観検査自動化、刃具不良検知方法の変更、ドラレコ活用による慢性クレームの撲滅、ものづくり改革など)の内容について説明を受け、工場を見学した。見学後、質疑応答時間を設け、意見交換を活発に行った。

定例委員会では、2023年度事業活動報告および2024年度事業活動計画について説明した。

2024年度は幹事会を2回、定例委員会は4回で、7月は見学会、9月と12月は事例発表、GD形式、2月は勉強会と、それぞれ合わせて行うことと、10月には県外企業見学会を行うことを確認した。なお、年1回の会報誌「join♡T」第4号を3月に発行する。

講座・セミナーは、年間15講座・セミナーに加え、県からの受託事業「現場の技術・技能伝承支援研



修」を含めて16講座・セミナーを開催することと、現状を把握し、問題点・課題を見つけ出して次年度計画に反映させるために、担当委員募集を継続して行うので協力をお願いした。

■ 幹事会

4月8日(月)、谷川委員長はじめ幹事9名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

谷川委員長の挨拶の後、2024年度の具体的な事業活動計画について協議した。委員会活動については、幹事会を4月と11月の2回開催すること、定例委員会は7月に県内企業見学会、9月と12月は事

例発表会とグループディスカッション、2月に勉強会と併催すること、県外企業見学会については1泊2日で10月に計画すること、さらに、会報「join♡T」第4号発行に向けて会報編集部会を数回計画することなど、活動の骨子について協議した。

また、講座・セミナーについては、現行の15講座および富山県か



らの受託事業「現場の技術・技能伝承支援研修」を継続して開催することなどを確認した。

経営企画・IT委員会

■ 定例委員会

3月1日(金)、萩中委員長はじめ10名が出席して富山電気ビル4階7号室で開催した。

萩中委員長の挨拶の後、事務局より2023年度事業活動報告をして今年度を振り返った。次に2024年

度委員会事業計画(案)について説明し、協議した。未来塾については次年度も開催を計画し、募集方法を検討して進めていくこととなった。11月委員会では勉強会または、状況により企業見学会を実施することとした。



次回委員会は6月26日(水)に開催。

講座・セミナー

■ 次世代経営者育成セミナー

地域の中核企業の次世代経営者育成を目指し、昨年9月にスタートした「次世代経営者育成セミナー～ひと・しごとと未来創生塾(第4期)～」が最終日を迎え、3月1日(金)14時30分から、富山電気ビルで、塾生4名と来賓はじめ関係者38名が出席して、「卒塾式」を開催した。

共催のトーマツ森川塾長挨拶の後、塾生全員によるスピーチ、続いて事業構想のプレゼンテーションが行われ、塾生が自身の置かれた立場に対峙し、自らの生き方や将来のビジョンに向けた決意と覚悟を熱く語った。

発表後、山下会長から各塾生に卒塾証書が手渡され、「通常業務と並行して課題に取り組むなど、厳しい半年だったかと思われる



が、経営者として進んでいくにあたっての覚悟や、自分の会社をどの様にしたいのかを真剣に考える機会は大変貴重な時間だったと思います。本塾で学ばれた事を今後活かされ、自社の発展はもちろん、富山県の経済界をリードしていく人材となっただくことを期待しています」と言葉を贈った。

さらに、塾生に対する激励の言葉が、富山県商工労働部 齊木理事・次長、経営企画・IT委員会 萩中委員長、トーマツ 齋藤ディレクターからあった。



塾生を代表して戸出化成(株) 高畑周作代表取締役社長から半年を振り返り、「最近のZoomセミナーとは対極のセミナーで、一生忘れられない研修、学びの場であった。最初はとまどうこともあったが、終わってみればとても貴重な経験をさせていただいたと感じている。実践でしっかりと地域にお返ししていきたい」と感謝の言葉があった。

最後にトーマツ 鈴木マネージャーが閉会の挨拶をして、卒塾式を終了した。

階層別研修

■ 第2回職場リーダー実践コース

2月20日(火)・21日(水)、44名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタントの澤倉光仁郎氏が、企業や組織をとりまく環境変化への対応力強化の必要性とそ

役割について講義し、活発な意見交換を通して理解を深めた。この中で、①目標の達成に導く実践的な展開方法(PDCA手法)の修得、②リーダーシップと、部下の性格等に応じた育成の考え方・スキルの習得、③交流分析やコーチング技法に関する理解と実践力の強化、④メンタルヘルスを推進す



る上でのリーダーシップ発揮の要点と方法について学んだ。

■ 若手社員ステップアップコース

3月5日(火)、44名が参加して、富山経協・研修室で開催した。好評につき同月6日(水)、39名が参加してタワー111ビル4階ギャラリーにて追加開催した。

本研修は、入社1年～3年程度の若手社員を対象に「自ら組織に働きかけ、組織の活性化に貢献できる人材」となるための心構え・知識・スキル、さらには後輩を指

導するための「後輩指導力」を養うことをねらいに企画している。

(公財)日本生産性本部経営コンサルタントの林正和講師は、仕事とは一人の才能や強みを貢献に変えるプロセスであるとした上で、①仕事哲学、②リーダーシップ、③チーム力、④後輩指導力について講義し、グループディスカッションで受講者同士の経験を共有しながら学んだ。最後に、本研修



で学んだことを自社で活用するために「実践活用シート」を作成し、個人目標を立てて終了した。

参加者NOTES

「若手社員ステップアップコース」

を受講して

萩浦工業株式会社
設計部

石田 壮哉



私は入社してから3年目で、ある程度デスクワークや職場の雰囲気には慣れてきたと感じていますが、他の会社と交流を行う機会はまだあまり無く、お客様への対応もうまく話せず、上司や先輩に頼り切りの状態です。その為、緊張しながらの参加となりました。

講習では、「仕事哲学」「リーダーシップ」「チーム力」「後輩指導力」の4つの項目について、講師の方から説明を受けたり、出された課題について班に分かれて意見を出したりし、様々な考え方や仕事への姿勢を知る事ができ、とても良

い経験になりました。その中で、特に印象に残った項目が2つありました。

1つ目は「チーム力」です。強力なチームを作る為には、目標と方針を明確にして、その上で自分の役割は何かを理解する為チーム内でコミュニケーションを取り、メンバー間の関係向上を図る。これらを改善しながら繰り返し、誰もが真剣に取り組む事が必要である。演習の「漂流脱出テスト」では、班内で目標共有をしないと、目標達成に必要な条件を見落としていたり、間違えている事に気付かな

かったり等の問題が発生する事からチーム内での目標の明確化の重要性を学びました。

2つ目は「後輩指導力」です。先輩社員の「ほめる」「叱る」の意味は、「望ましい行動」に導く「情報提供」、その対象は相手の「行為」であって「人格」では無い、ほめ方、叱り方の基本形等、後輩と接する際に気を付けたい事や活用したい事を学ぶ事ができました。

今回の講習で学んだ事と普段の上司や先輩方からの指導を振り返ると、類似している事が分かりました。そのように指導して下さる上司、先輩方は素晴らしい方々だと思います。

自分もこの講習や、上司、先輩方から得たことを活かし、後輩を成長に導ける先輩になるため、日々励んでいきたいと思っています。

2024年度新入社員合同研修

4月4日（木）、48社169名の新入社員が参加して、タワー 111ビルスカイホールで開催した。

「社会人としての基本と企業人としての心構え」を学ぶことをねらいに、(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタント林正和氏、(株)コトノハ代表廣川奈美子氏、島崎社会保険労務士事務所所長島崎裕美子氏、富山県金融広報委員会金融広報アドバイザー漆間明子氏、そして当協会中西誠副会長の5氏が講義・講話した。



第1部 経営者講話

中西副会長が「新入社員の皆さんに望む」と題して講演した。



<要旨>

社会人に求められることとして、良い仕事を通して人格を磨き、成功と充実した人生を送りましょう。当社では、お客様が喜ぶ仕事、働く仲間が喜ぶ仕事、本人が成長できる仕事を良い仕事と位置付け、仕事を通して自分の人間性を磨いていこうと言っている。人格は習慣によって作られ、習慣は常に意識しながら継続することにより、人間性や人格が培われる。

会社方針や理念を理解して「自らが計画を立て、チェックし、改善し、その目標の達成に責任を持って取り組む」姿勢のある人が育つような会社にしていきたい。当社の人事制度の考え方は、①志を高く②考える力③学習する力・行動に移す力が人格形成には大事だと話し合い、仕事の中にどう生か

していくか、成長の伸びを大きくして人間的に豊かになることを目指している。志では「他人の利益もはかる姿勢」が一番大切。自分さえ良ければ良いではなく、仲間もお客様も良くなってほしいという心が大事。目的、目標を明確にし、事実に基づいて考え、行動に移せるような思考が大事。多くの人と会い、明日からの実践に繋げ、良い習慣にしていきたい。

第2部 学生から社会人へ・

職場のコミュニケーション・

指示命令の受け方と報告の仕方

林講師が、学校生活と職場生活の違いを正しく理解するため、組織人としての態度や行動、また、仕事に取り組む意識として、組織の目的と社会的責任を認識しなければならないとし、顧客意識、品質意識など5つの意識と、整理・整頓など安全の3Sを常に意識する必要があるとした。次にコミュニケーションを行なう際の心構え、上手なコミュニケーションのための基本、報告・連絡・相談の大切さと、指示命令の受け方として、呼ばれたらメモを取る、復唱するなどの、具体的な指導を通して、考えて行動することの大切さを伝えた。

第3部 消費者トラブル対処法

～自分の財産は自分で守る～

金融広報アドバイザー（消費生活相談員）の漆間氏が、最近の若者に多いトラブル事例とその対処法について詳しく説明し、今後、リテラシーの向上、情報収集、専門施設への相談が重要であることを伝えた。

第4部 社会人としてのマナー

・職場のマナー

廣川氏が、社会人として必要なマナーについて講義した。第一印象の大切さ、身だしなみのポイントや挨拶の仕方などを説明した後、お辞儀の仕方の実技訓練などを行った。

島崎講師は、職場でのマナー・ルールについて講義した。会社のルールである服務規律を守ることの大切さ、職場の風紀・秩序を乱す行為は慎むことなど、企業人として法律に基づき守らなければならない職場での基本について解説した。

第5部 まとめ・レポート作成

林講師が研修を総括し、受講者は本研修で学んだ事柄を自社で活用するため、「実践活用シート」を作成し終了した。

共 通

■ 企業(組織)における

情報セキュリティ基礎セミナー

2月28日(水)、来場5名、オンライン6名が参加し、富山経協・研修室で開催した。

上市社会保険労務士事務所の上市真也氏が、①中小企業におけるセキュリティ事例、②情報セキュリティ 2024年の10大脅威、③中小企業の情報セキュリティ対策に

ついて説明した。具体的な対策として、独立行政法人情報処理推進機構が作成したチェックシートを用いて自社のセキュリティレベルを確認し、現状に応じたセキュリティ対策の進め方について検討することや、同機構が作成したドラマ形式の動画も紹介し、従業員向けのセキュリティ対策の一助となることも解説した。



■ 中小企業向け「カーボン

ニュートラル推進セミナー」

2月26日(月)、47名(会場10名、オンライン37名)が参加して、富山経協・研修室で開催した。

このセミナーは、カーボンニュートラルに係る政策動向から、中小企業がカーボンニュートラル対応を進めるためのステップ及び支援施策の紹介を通じて、省エネによるコスト削減、資金調達手段の獲得、製品や企業の競争力向上など、カーボンニュートラル対応を進めるためのきっかけとなること

をねらって開催した。

はじめに、経済産業省中部経済産業局カーボンニュートラル推進室係長の土屋博義氏から「カーボンニュートラルに関する政策動向」と題して、GX推進法の概要及び製造業向けカーボンニュートラル推進の各ステップについて解説の後、「中小企業向けカーボンニュートラル関連支援施策」を紹介頂いた。続いて、経済産業省中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局北陸経済企画調査室企画調整係長の七里健太氏からは「その他



の支援施策」として、令和6年能登半島地震関連施策を中心とした中小企業向け支援施策の紹介を頂いた。

■ ISO9001内部監査員養成講座

3月6日(水)・7日(木)、28名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものであり、県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないことから、今年度2回目の開催とした。

講師の(株)テックス ISOコン

サルタントの青山俊一氏は、内部監査は不適合の「修正処置」に留まらず「改善ツール」であることを再認識する必要があるとした上で、ISO9001規格のポイント、要求事項の解説、ISO9001監査プログラムの概要などについて講義した。

2日目の午後から内部監査の実技演習を行い、約1日半で学んだ内部監査を行う上で必要な関心相関性を確認しながら、自職場で実践する上でのポイントを学んだ。



■改善セミナー・応用編

3月12日(火)、26名(会場16名、オンライン10名)が参加して、富山経協・研修室で開催した。この講座は、10月に開催した「改善セミナー・基礎編」に続く応用編で、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的なノウハウについて検討し、改善活動のレベルアップを実現するために開催している。

改善コンサルタントの東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が重要であり、レベルアップのためには、改善を積み重ねる「連続改善」と、改善を組み合わせる「複合改善」が有効であるとした。また、参加者が実際に企業の現場で抱えている問題・課題について、具体的な事例に基づいてアドバイ



スが行われたほか、改善事例は手間をかけずに書き出して定石集として取りまとめることを勧めた。

労務管理

■労働法実務講座(第4回)

2月16日(金)、講師に第一美容法律事務所の木下潮音弁護士を招き、「フリーランスの働き方とフリーランス新法 ～労働者性と事業者性の判断と企業のコンプライアンス～」をテーマに、11名(会場7名、オンライン4名)が参加して富山経協・研修室で開催した。

我が国において働き方が多様化する中、昨年4月にフリーランスの適正な契約管理等を求める「フ

リーランス新法」が成立し、今年秋には施行されることになる。

同法は、個人として業務委託を受けるフリーランスと企業などの発注事業者の間の取引の適正化、フリーランスの就業環境の整備を図ることを目的としており、企業がフリーランスと契約する際の留意点ならびにフリーランスに対するハラスメント対策など、木下講師は、企業のコンプライアンスについて分かりやすく解説した。



受講者の中には、「大変参考になった。今後もフリーランスや副業に関する講座を継続して開催してほしい」との意見があった。

生産管理

■現場の技術・技能伝承支援研修

昨年8月8日(火)に、富山県からの受託事業として開講した研修は、2月22日(木)に18日間の全日程を終え閉講した。

この研修は、ものづくり企業の将来を背負う中核人材の育成をねらいに、リーダーとしての「意識改革」、徹底した「事実の観察」の必要性と実践、「良い流れ」をつく

ることの重要性の理解、実践に必要な手法(QC、PM、IEなど)を座学で習得するとともに、受講者自身が所属企業の製造現場を教室とした「現場実習」で学んだ内容を実践することで、“行動できる”まで修得すること目指している。

最終日の22日は、受講者4名1チームで活動した「現場実習」の成果について4つの発表を行った



後、各人の決意表明があり、各派遣先の上司が見守る中、受講者16名が修了証を手にした。

新委員長の紹介

人事・労務政策委員会

伏木海陸運送株式会社

代表取締役社長

大門 督幸



会員の動き

(50音順)(敬称略)

■ 代表者の変更 (窓口代表者)

株式会社インテック

代表取締役社長 疋田 秀三 (前:北岡隆之)

AWS株式会社

代表取締役兼CFO 坂田祐一郎 (前:箕田美也)

株式会社高志インテック

代表取締役社長 山本 克也 (前:本江康浩)

金剛薬品株式会社

代表取締役社長 米田 篤史 (前:黒瀬雅男)

株式会社スカイインテック

代表取締役社長 岸 善之 (前:高瀬幸忠)

株式会社大和 富山店

店長 吉澤 勉 (前:中崎俊也)

東京海上日動火災保険株式会社 富山支店

富山支店長 下村 貴之 (前:小林直行)

株式会社ナチベアリング製造

代表取締役社長 植田 博信 (前:内田昌孝)

日本カーバイド工業株式会社

執行役員魚津・早月工場長 吉澤 正樹 (前:長谷川幸伸)

ホクトミ運輸株式会社

代表取締役社長 澤飯 紀大 (前:澤飯公臣)

■ 役職位の変更 (窓口代表者)

日本曹達株式会社 高岡工場

執行役員生産本部高岡工場長 瀬下 敦寛 (前:執行役員高岡工場長)

日の出屋製菓産業株式会社

代表取締役会長 川合 声一 (前:代表取締役会長兼社長)

株式会社不二越

代表取締役専務執行役員 原 英明 (前:取締役常務執行役員)

YKK株式会社

黒部事業所顧問 浅野 慎一 (前:副社長黒部事業所長)

新会員の紹介

(50音順)(敬称略)

■ 春日温泉観光開発株式会社

所在地 富山市春日96-1

代表者 取締役副社長 総支配人
小西 弘晃

設立 1997年(平成9年)11月

資本金 1億円

従業員 75名

事業内容 宿泊業(旅館)



■ 株式会社 北国増改センター

所在地 中新川郡立山町利田1475-4

代表者 代表取締役社長 高橋 護

設立 1984年(昭和59年)5月

資本金 1,900万円

従業員 17名

事業内 アルミエクステリア施工、住宅リフォーム全般

■ 丸福石油産業株式会社

所在地 高岡市美幸町2丁目1-28

代表者 代表取締役 沖野 幸一

設立 1984年(昭和59年)10月

資本金 2,000万円

従業員 65名

事業内容 石油製品の販売業、自動車並びにその用品の販売業、自動車軽整備業、損害保険等の保険代理業務、建築用材料の販売業、その他



■ 所在地変更

松下電建株式会社

富山市下大久保1491-3 (前:岐阜県飛騨市神岡町船津1478)



表紙の花 アーモンド

(富山県中央植物園 園長 中田政司)

アーモンドはサクラの仲間

チョコレートの中に入っているナッツとして昔から親しまれ、最近では健康や美容に良い食品として注目されているアーモンドですが、サクラの仲間であることはあまり知られていません。サクラといっても、同じバラ科のモモに近縁な種類で、花の柄が短く、枝に直接着いている様子は、一見してモモの花のようです。花の後で出てくる葉が細長く、果実の表面に柔らかい毛が生えていることもモモと似ていますが、アーモンドを漢字で「扁桃」と書くように、果実は扁平で縦長の形をしています。

ちなみに、子供の頃、のどの扁桃腺(現在は扁桃に改称)が腫れて熱が出た事があるかと思いますが、この名前は形がアーモンドに似ていることに由来します。

ビタミンEが豊富

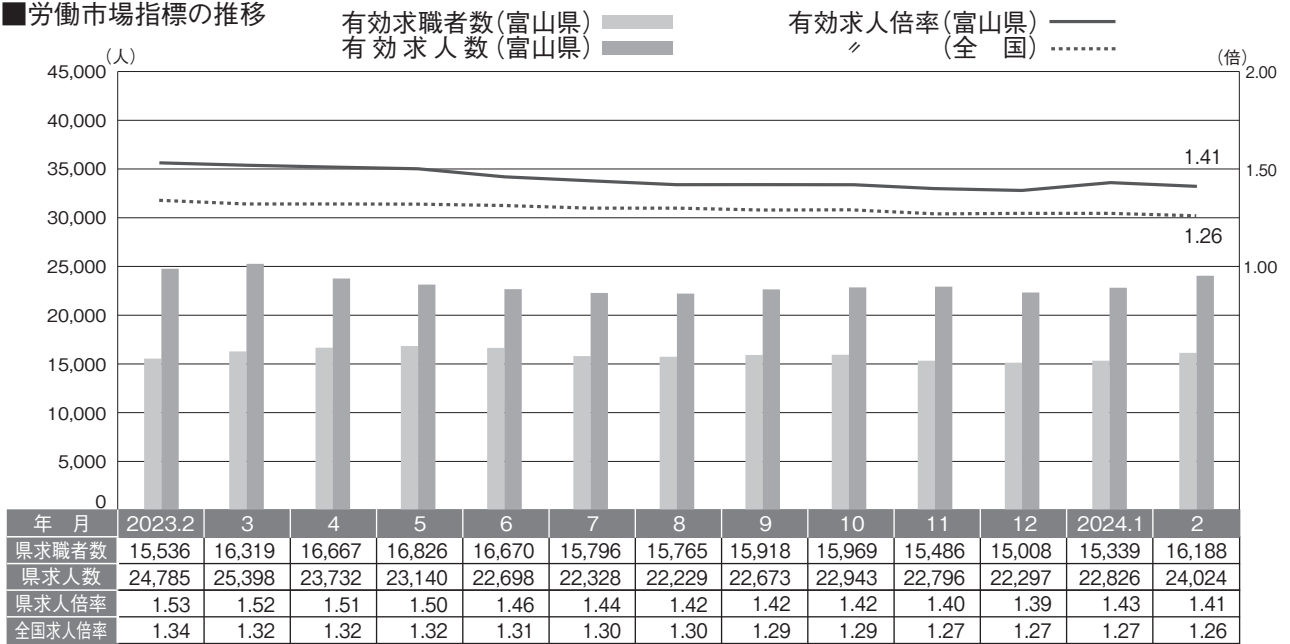
アーモンドの果実は夏に熟しますが、果肉は薄く、硬くて食べられません。熟した果実は枝に着いたまま割れて、種子のように見える「核」と呼ばれる硬い部分が現れます(写真)。この核を割ると中に本当の種子があり、これがナッツとして馴染みの深いアーモンドになります。

アーモンドの原産地は西アジアで、現在はアメリカ・カリフォルニア州や地中海沿岸が主要産地です。ビタミンEやB₂、食物繊維が豊富に含まれていて栄養価が高い一方、カロリーも高いため、食べ過ぎはダイエットに逆効果という事で、1日に20~25粒が適量と言われています。 アーモンドの果実 ▶



労働指標

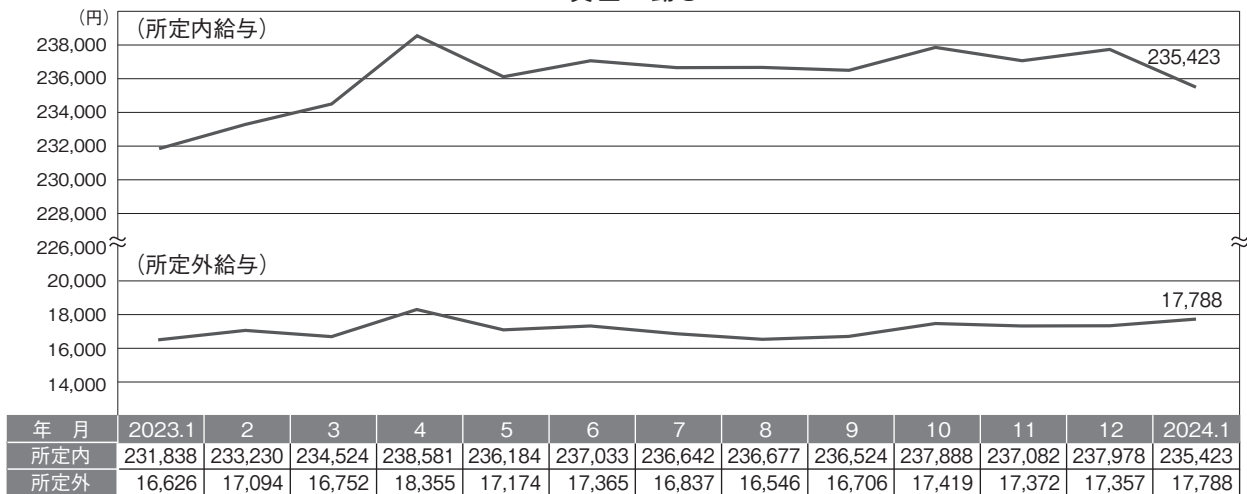
労働市場指標の推移



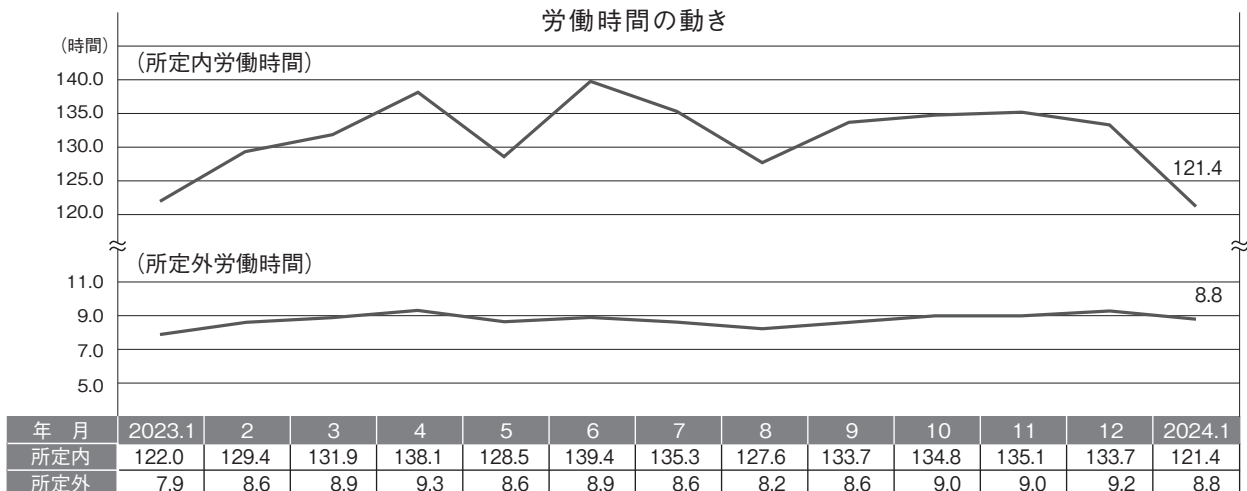
出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html
 注) 2023年12月以前の有効求人倍率の数値は新季節指数により改定されています。

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

5月23日(木) 一般社団法人 富山県経営者協会
第79回 定時総会15:00～15:40 定時総会 〈富山国際会議場 2階201～204号室〉 富山市大手町1-2
電話 (076)424-5931

16:00～17:30 講演会 〈富山国際会議場3階メインホール〉

演題 「《未来人材ビジョン》を読み解く」
～これからの人材育成への指針と施策～

講師：株式会社インサイトパワーズ 代表取締役 辻本 光邦 氏

※講演会は同時にオンライン配信も行います。

17:40～19:10 懇親会 〈ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」〉
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

事業予定

2024年 4月16日～6月15日

詳しくはホームページ(<https://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL=オンライン併用開催

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所
議	4月16日(火)	16:30～17:30	環境委員会「幹事会」	環境	富山経協・研修室
	4月17日(水)	16:00～17:00	理事会		富山経協・研修室
	4月23日(火)	16:00～17:00	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	富山経協・研修室
	5月23日(木)	15:00～19:10	定時総会、講演会、懇親会 上記「おしらせ」参照		富山国際会議場 OL ANAクラウンプラザホテル富山
	5月23日(木)	15:45～15:55	理事会		富山国際会議場
	6月14日(金)	14:00～16:30	人事・労務政策委員会、教育委員会合同 「定例委員会・企業見学会」	人事・労務政策 教育	(株)リッチェル
講 座 ・ セ ミ ナ ー	4月18日(木)・25日(木) 5月 9日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座<基礎編>	品質管理	富山経協・研修室 タワー111ビル 3階スカイホール
	5月 8日(水)	9:30～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教育	富山経協・研修室
	5月14日(火)・15日(水)	9:30～16:30	職場リーダー基本コース	教育	富山経協・研修室
	5月16日(木)・30日(木) 6月 7日(金)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室 タワー111ビル 2階会議室1
	5月21日(火)	9:30～16:30	人事・労務管理セミナー<第1回>	人事・労務政策	富山経協・研修室
	5月28日(火)・29日(水)	9:30～16:30	ISO14001内部監査員養成講座	環境	富山経協・研修室
	6月 4日(火)・ 5日(水)	9:00～17:00	ものづくりと現場改善実践セミナー	品質管理	富山経協・研修室
	6月 6日(木)	9:30～16:30	コミュニケーション力向上セミナー	教育	富山経協・研修室
6月11日(火)・12日(水)	9:30～16:30	ヒューマンエラー対策講座<実践編>	品質管理	富山経協・研修室	

「富山経協」vol.881

2024年(令和6年)4月号
2024年4月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952ホームページ <https://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp